

校 園 長 室 か ら



学 校 教 育 目 標

共 に 学 び 共 に 伸 び る 子 ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和 6 年 7 月 12 日 第 13 号

破 獄

何年かぶりに教室でお話をさせてもらいました。実は、小学校の教員免許を持っていませんので、授業はできません。ゲストティチャーとして扱ってもらえたら。

6年生に作文を書いてもらおうと、先日参加させていただいた「社会を明るくする運動」のお話をさせてもらいました。

その導入部分で、吉村昭著『破獄』という小説を紹介しました。何度も刑務所を脱獄する人の話で、ほぼ実話です。何度もテレビドラマにもなりました。生徒指導に悩んでいる若い先生に勧めたこともあります。

ところで、いよいよ夏休みが近づいてきました。遊ぶ計画は着々と進んでいるのではないのでしょうか。本を読むこと、読書についてはどうでしょうか。

先述の吉村昭さんの小説で言えば、『熊嵐』。読んで字のごとく熊にまつわる実話で、クマ出没のニュースを聞くと凄惨な場面が思い出されます。『漂流』は、江戸時代に船で遭難して島に流れ着きサバイバル生活を10年以上続けた人の話。これも実話です。『高熱隧道』は、トンネルを掘る話。機材が今ほど発達していないなか、このトンネルが通れば生活が変わると、たくさん苦難を乗り越えていく話。これも実話です。『戦艦武蔵』は、戦艦大和と並ぶ日本海軍が誇る軍艦の誕生から最後まで。全体の設計図を知っている人がほとんどいなかったと驚きの連続です。『零式戦闘機』も良かったし『ポーツマスの旗』の小村寿太郎には、感動しました。『海の史劇』は、司馬遼太郎の『坂の上の雲』と並ぶ日露戦争を扱った名作。『雪の花』、『冬の鷹』、『破船』といずれも事実をもとにしたお話。

夏休みに向けて読書計画を立ててみたらいかがでしょうか。